

「新時代の予感」

開幕戦から2か月、K耐久東海シリーズ2014は第2戦を迎えた。初戦で明らかとなった問題点を修正するチームや、ニューカマーを迎えて更なる盛り上がり期待できる。5月の西浦に吹く風は、新たな時代の嵐を巻き起こす風となるか。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

6台が参加したKNNクラス、今年も開幕戦で勝利した#100を中心とした戦いになるのか。その#100に挑戦するのは、開幕戦2位の#35「JKレーシングユーロビート」、同じく開幕戦で、新規格マシンでの初の表彰台に上った#10「FAST-OUT アルト」といった面々。さらに第2戦では新規格アルトバンとトゥディが参加する。

■予選

予選トップを獲得したのは、開幕戦に続き#35「JKレーシングユーロビート」で1'09.847。チャンピオン候補の有力チームの一つであり、この程度は朝飯前とばかりに2戦連続の予選トップ。2番手は#100「HAC もらいものビート」が1'11.199、こちらも有力チームらしく予選を手堅くまとめてくる。予選3番手は#10「FASTOUT アルト」が1'11.518、ここまでは開幕戦と全く変わらないオーダーだが、タイム差は確実に縮まってきており新規格マシンのポテンシャルが向上している。

予選4番手は、#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」1'14.256、5番手は新規格アルトバンの#95「KHK アルト」1'19.124、予選6番手は1'27.887ながら予選を通過した#410「RS TODAY」で全車決勝のグリッドにつく。

■序盤

序盤まずトップに立ったのは#100「HAC もらいものビート」、義務ピット前までにリードを広げようと快走。それを追いかけるのは#10「FASTOUT アルト」といった展開。3位は#410「RS TODAY」でラップタイムも安定してきたか。4位#95「KHK アルト」こちらもしっかりとついていきたい。一方比較的早めのピットイン作戦か#35「JKレーシングユーロビート」と#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」はタイムボードの下の方。#28は開幕戦で緊急のタイヤ交換があったが今回はどうか。

■中盤

レース中盤も#100「HAC もらいものビート」がトップで2位以下を引き離しにかかる。#10「FASTOUT アルト」と順位をあげてきた#35「JKレーシングユーロビート」がトップへの挑戦権をかけての2位争い。以下#95「KHK アルト」、#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」の順。#410「RS TODAY」は少し周回が伸びてこないのが心配だ。

速さでは旧規格車が依然として一枚上手だが、新規格車はピットハンディがあるため若干有利、そこを利用した順位アップも狙える。逆に言えば新規格車に速さが備わってくれば、その争いは接戦となる



開幕連勝は最高の形！ #100



自己最高位を更新 #10



こちらも嬉しい初表彰台 #28



新規格車の主力はアルトバン #95



最後は残念 #35

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤に入ってもトップは#100「HAC もらいものビート」だが、2 位には#35「JK レーシングユーロビート」が上がってきており、実力派チーム同士の争いとなる。3 番手走行は#10「FASTOUT アルト」で表彰台争いから一歩抜け出した感じか。以下#95「KHK アルト」、#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、#410「RS TODAY」の順。そろそろ順位が固まってきたようだが、まだまだ気を抜けない。

■最終結果

ゴールまであと 5 分を切ろうかという大詰めになって、2 位を走行していた#35「JK レーシングユーロビート」が 1 コーナー先でコースアウト。セーフティカー導入となってしまう。マーシャルの作業のかたわらをセーフティカーによる先導で周回を重ねたが、レース終了時刻となりそのままチェッカーが振られた。結局優勝は#100「HAC もらいものビート」で、開幕から連勝でポイントも首位をがっちりキープ。2 位には#10「FASTOUT アルト」があがり KNN クラスの新規格車最高位を更新。3 位は、#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」が#95「KHK アルト」との競り合いを制し見事ポディウムに。4 位は惜しい#95「KHK アルト」、5 位は最終盤にコースアウトしてしまった#35「JK レーシングユーロビート」が完走扱いで入賞となった。#410「RS TODAY」は規定周回数をクリアしたものの最終盤のピットクローズドの時にやってきたため 4 周減算で完走扱いにはならない。

■総評

最終盤での混乱もあったが、新規格マシン#10「FASTOUT アルト」が自己最高の 2 位に入り、新規格でも十分に戦えることを証明した。これは KNN での新しい波となるのだろうか、次戦以降も目が離せない。



残念、今回は完走ならず #410



熟成の旧規格 VS 可能性の新規格



インタビューも慣れたもの



オイルも 2 連勝！！





トウディ対決を制した！ #66



今度のマシンは黒 #25



この辺りはどこが勝ってもおかしくない #60



クラス唯一のビートで奮闘 #55

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

東北 NA660 選手権車両の#51の「川晋工芸&キャドカーズ エッセ」は残念ながら不出走。#66「IMWトウディ」、#60「明智自動車スペシャルトウディ」といった有力チームによるバトルが期待された。ただ、#25「アカミネコマル 2 トウディ」は同じトウディながら、AC や P/S もある（チーム代表）マシンでのエントリー。これがどう響くか。

■予選

予選トップはトップの#66「IMWトウディ」1' 07.720、2 戦連続のトップ。2 番手に飛び込んだのは#41「まっかなバラードトウディ」、3 番手は#25「アカミネコマル 2 トウディ」でタイムは 1' 08.919、さすがに少々厳しいか。4 番手#60「明智自動車スペシャルトウディ」1' 11.013、こちらもタイム的にはいつもの速さがないのは心配。5 番手は初参加の#55「志らはビート」1' 14.568、トウディばかりのなかたった一台のビートという構図。

■序盤

序盤トップ争いを繰り広げたのは、#41「まっかなバラードトウディ」、#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#66「IMWトウディ」。街乗り用とも言える仕様が残っている#25「アカミネコマル 2 トウディ」は早めのピットインという戦略か。スタートから調子が上がらないのは#55「志らはビート」、ピットでの作業が続くのが気になるところだ。

■中盤

中盤のトップ争いは#25「アカミネコマル 2 トウディ」と#41「まっかなバラードトウディ」が主役。ほぼ同じペースで周回を重ねる。それを追うのが#60「明智自動車スペシャルトウディ」と#66「IMWトウディ」だが、#66 はホワイトラインカットやその不履行、さらにはピットロード速度違反とベテランチームとしては少々ペナルティの多いレースとなってしまっている。何れのペナルティも注意をすれば防げるものだけにもったいない。

■終盤

残り 30 分を切った段階で、トップの#41「まっかなバラードトウディ」は 117Lap を走行。#25「アカミネコマル 2 トウディ」は 1Lap 差の 116Lap、3 位の#66「IMWトウディ」は 115Lap、4 位の#60「明智自動車スペシャルトウディ」は 114Lap、とほぼ 1Lap ずつの差となっている。5 位の#55「志らはビート」もマシン不調から復調しこの時点で 99Lap を走行、しっかりとゴールを目指す。

Race Report



■最終結果

最終盤に他クラスのコースアウトからセーフティカーによるチェッカーという、K耐久としては極めて珍しいゴールシーンとなったこのレース、終わってみれば131Lapを走行した#66「IMWトウディ」が優勝。2位には少し重いマシンだったが#25「アカミネコマル 2トウディ」が130Lap。3位には#60「明智自動車スペシャルトウディ」130Lapという表彰台。4位には#55「志らはビート」が113Lapを走り見事入賞という結果になった。

なお、132Lapを走りトップでチェッカーを受けた#41「まっかなバラードトウディ」だったが、レース後の再車検において車両規定違反となり章典外となった。

■総評

今回は旧規格車ばかりの対決となったが、相変わらず接戦なのがこのクラス。車両規定違反となった#41は残念だったが、どのチームも実力伯仲の争いを見せてくれた。

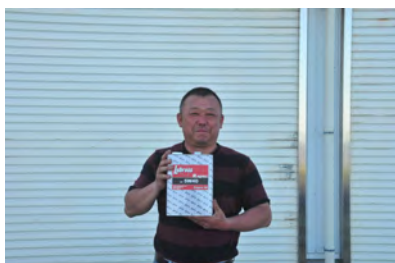
今シーズンから参加が許された東北レギュレーション車や新規格車の参加はなかったが、他のクラスでも新規格車は増えてきており、このクラスでもその動向が注目される。



車両規定違反で章典外 #41



序盤の不調から見事完走



これまたオイルを Get !



シュアラスターでピカピカに





昨年から怒濤の4連勝！！ #38



大混戦のなか2位に #23



フロントローから3位 #910



今日はガチャピン顔じゃないぞ #284

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

2台だった開幕戦とは打って変わって6台ものエントリーを集めたKNOクラス、NAの咆哮を響かせながら軽量マシンを振り回し、時には総合優勝を狙える。開幕戦では総合チェッカーを受けた#38「デモリッションエグゼトゥディ」、#284「JKレーシングユーロトゥディ」を中心に、#23「チームミニトゥディ」、#99「チームオーシャンズトゥディ」といった実力派チームが顔をそろえた。トゥディとビート2台のマシンを持ち込んだCRAZYチームの走りにも注目だ。

■予選

予選トップは、#910「CRAZYレーシングビート」が1'05.872で総合フロントローを獲得、トゥディ軍団の中で一人気を吐く。予選2位は#23「チームミニトゥディ」1'06.233、昨年は2P差でタイトルに届かなかったがさすがの実力。予選3位は開幕戦優勝の#38「デモリッションエグゼトゥディ」1'06.665がこの位置から連勝を狙う。予選4位は#99「チームオーシャンズトゥディ」1'06.790、2012年のチャンピオンチームが久々の参加。予選5番手は#284「JKレーシングユーロトゥディ」1'07.159、今日はガチャピン顔じゃない。予選6番手は#912「CRAZYZY Today II」1'08.369で、チームCRAZYの2台目。

■序盤

レースは序盤から接戦、1時間経過の時点では、#38「デモリッションエグゼトゥディ」、#284「JKレーシングユーロトゥディ」、#910「CRAZYレーシングビート」の上位3台は全くの同一Lap、#99「チームオーシャンズトゥディ」も1Lap差でピタリマークという展開。

5番手#23「チームミニトゥディ」、6番手#912「CRAZYZY Today II」もピット戦略の関係もあって差ほど離れてはいない、やはりこのクラスはマシン、チームのポテンシャルが接近しているだけあって接戦になる。

■中盤

中盤においてもその状況は変わらず、むしろ全体がタイムボードの上に来て、つまり総合上位を占めながら、1位から6位までが3Lapの間にひしめきあっている。注目はたった一台で孤軍奮闘の#910「CRAZYレーシングビート」、トゥディ軍団を向こうに回し、トップ3の一角を死守している。

■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップを行くのは#38「デモリッションエグゼトゥディ」で100Lapと大台に乗せる。2位は同じく100Lapで#284「JKレーシングユーロトゥディ」、3位は97Lapで#910「CRAZYレーシングビート」、4位#23「チームミニトゥディ」97Lap、5位#99「チームオーシャンズトゥディ」96Lap、6位#912「CRAZYZY Today II」95Lapとなっており、優勝こそ上位3台に絞られてきた感があるが、それぞれのポジションでは目の前の敵とは僅差の争い。

今日は雨の心配こそないが、この先残り一時間マシンのコンディション変化にも目を光らせながら、各チーム・ドライバーの集中が求められる。

Race Report



■最終結果

最終スティントまで全く気の抜けないこのレースを制したのは、#38「デモリッションエグゼクトゥディ」で見事開幕 2 連勝昨年の第 4 戦から数えて 4 連勝！ MLB のマー君はついに連勝が止まったが、こちらの連勝はどこまで続くのか。

2 位に入ったのは久しぶりの出場となった#23「チームミニトゥディ」、復活勝利とはならなかったがトップまで 1Lap 差まで詰めた走りは見事。3 位は#910「CRAZY レーシングビート」こちらは昨年の最終戦以来の表彰台で、ビートここにありを印象付けた。4 位は#284「JK レーシングユーロトゥディ」、でここまでがトップと 1Lap 差まさに混戦。さらに 5 位の#99「チームオーシャンズトゥディ」もトップから 2Lap 差とこちらも実力派のチームらしいレース運びを見せての入賞となった。マシントラブルからリタイヤとなった#912「CRAZYZY Today II」も規定周回数をクリアしての 6 位完走となった。

■総評

さすがの実力派チーム同士のバトルは見ごたえ十分。トップから 5 位までが 2Lap 差というのがその接戦ぶりを物語っている。どのチームのマシンも十分に熟成されており、勝負を分けるポイントはそう多くない、いかにミスなく安定したタイム続けるか、そういった意味ではこのクラスのドライバーたちの力量は素晴らしい。#38 の連勝こそ続いているが、その差はわずかだ、次戦もグッドレースを期待したい。



ここまでトップから 2Lap ! #99



トゥディかビートか！



トロフィーもさらにはオイルも！！ このチームを止めるのはどこだ！



見事完走 #912

Race Report



記念すべき新規格車初優勝！ #717



速さならこちらか #93



手堅くポイントゲット #112



KTCクラス（軽ターボのクロードクラス）

クラス変更が出たため 3 台のエントリー。旧規格アルトとカプチーノに新規格アルトが挑む展開、新規格ワークスをチョイスしたアルト使いの Team Jatsun。開幕戦は KTC 新規格最高位の 2 位を獲得し上り調子だ。

■予選

予選トップは、#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'07.997、今季初優勝を狙うのに好位置。2 位は注目の#717「Team Jatsun アルト」1'09.206 本来のポテンシャルからはわずかに伸びない印象だが、目指すは新規格車初優勝。予選 3 位は#112「白須賀会カプチーノ」1'12.298、開幕戦優勝チーム、決勝での巻き返しに期待。

■序盤

序盤は僅差の争い、義務ピット前の第一スティントでは速さに勝る#93「藤枝マリンダイビングアルト」が飛ばすが、#717「Team Jatsun アルト」もついていく。#112「白須賀会カプチーノ」も決勝ではペースが回復し上 2 台をマーク。

■中盤

中盤のスティントでは新規格のハンディを活かして#717「Team Jatsun アルト」が首位に立つ。しかしながら#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#112「白須賀会カプチーノ」も周回を詰めようとにじり寄る展開。

■終盤

最終スティントに入った時点で、トップをいく#717「Team Jatsun アルト」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」の差は 1Lap、#112「白須賀会カプチーノ」とは 4Lap の差、優勝は上位 2 台に絞られたか。

■最終結果

最後まで僅差の争いが続いたが#717「Team Jatsun アルト」が同一 Lap ながら逃げ切り新規格車初勝利！#93「藤枝マリンダイビングアルト」は最後のセーフティカーがなければとも思うが惜しくも 2 位、3 位#112「白須賀会カプチーノ」もしっかりとポイントゲット。

■総評

最終盤のセーフティカーランがあったものの見事新規格初優勝。ラップタイムこそ旧規格だが、新規格でも優勝を狙えるポテンシャルがあることがはっきりした。KTC クラスにも新しい風が吹くか。



このクラスも
優勝チームがオイルを！！





KTOクラス（軽ターボのオープンクラス）

開幕戦で見事優勝を飾った#32「爆走あばれ馬ミニカ」に加え、昨年最終戦優勝の#12「KC テクニカアルトバンターボ」という優勝経験を持つ新規格軽の2台が、昨年のチャンピオンチーム#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、一昨年のチャンピオンチーム#210「ZEST ルブロスアルト」という強豪チームにどのように挑むかが注目だ。

■予選

予選トップは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」1'05.347、やはり速さでは譲れない。2番手は#12「KC テクニカアルトバンターボ」1'06.401、こちらも負けていない。3番手#210「ZEST ルブロスアルト」1'06.748、こちらも強豪だ。4番手#32「爆走あばれ馬ミニカ」1'06.877、開幕戦優勝チームは4番手スタート。5番手#69「モモアスレーシングアルト」1'09.930、本来 KTC クラスを想定したマシンでクラス変更で KTO になったためマシンの的には少々不利か。

■序盤

第一スティントではやはり速さの旧規格が有利、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」がトップに立つ。#12「KC テクニカアルトバンターボ」と#32「爆走あばれ馬ミニカ」はピットハンディを利用した作戦でチャンスをうかがう。#210「ZEST ルブロスアルト」は早めのピット戦略で後半勝負か。初参加となる#69「モモアスレーシングアルト」も離れずついていきたいところだ。

■中盤

中盤では#12「KC テクニカアルトバンターボ」と#32「爆走あばれ馬ミニカ」の新規格勢が#777「ナルミファクトリーアルト1号車」サンドイッチしての上位争いを展開。持ち前の速さで振り切りたい#777「ナルミファクトリーアルト1号車」だが、#12「KC テクニカアルトバンターボ」を侮れない速さで接戦となっている。中団グループでは周回を増やしてきた#210「ZEST ルブロスアルト」がじわじわと浮上。#69「モモアスレーシングアルト」も決してペースは悪くない。

■終盤

終盤は#32「爆走あばれ馬ミニカ」と#12「KC テクニカアルトバンターボ」の新規格が1-2体制、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も逆転を目指して追い込み体制に。#210「ZEST ルブロスアルト」も表彰台に一角に滑り込みたいが果たして届くか。

4番手は#69「モモアスレーシングアルト」は最後まで気を抜かずにしつかりと完走に持ち込むべく奮闘。



連勝で新規格をものにしたか #32



新規格同士のバトルも注目 #12



今週は3位がいませんでした(^_^メ)



代わりにPPのショットで！

Race Report



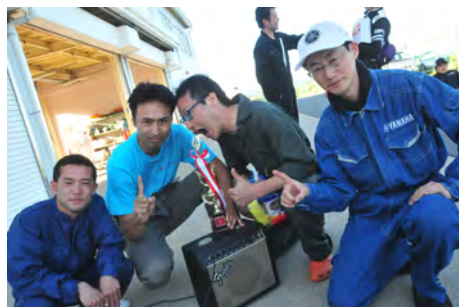
■最終結果

最後セーフティカー先導でチェッカーとなったこのレースを制したのは、#32「爆走あばれ馬ミニカ」、開幕戦に続く連勝！2位は#12「KC テクニカルトバンターボ」が同一周回で入りの新規格勢が1-2フィニッシュ！3位は追い上げ及ばず#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が1Lap差、4位には#210「ZEST ルプロスアルト」でポディウムまではあと一歩だった。5位#69「モモアスレーシングアルト」もKTCクラスに準じた仕様で見事完走を果たした。

■総評

ここにきてKTCクラスも新規格の力は本物か。レース中の最速ラップは1秒ほど旧規格勢が速いが、ピット戦略などでうまく回せば新規格の方が上を行く可能性が十分にあることがわかってきた。

一方、十分に熟成された旧規格の速さも魅力で、本来の爆発的な速さがあれば、このレースもどちらに転んでもおかしくない展開だった。改造車クラスにおける新旧規格車のバトルは今シーズンの注目の戦い、第3戦をとるのは果たしてどちらか。



今週はバッチリだZっ～！



終盤の逆転ならず #777



こちらは4位 #210



クラス変更もあったがしっかりと完走 #69



ピットワークが重要